

# 安全と安心のための リニューアル提案

安全性に自信が  
ないなあ…

ビルのそんなんつぶやきが聞こえたら…

安全 UP

# ニチボウは「建物の安全性」のレベルアップを提案します。



## 安全LV 18~20年経過しているガス系消火設備の 消火剤貯蔵容器更新

### 容器弁と消火剤貯蔵容器更新のお勧め

容器弁は年数が経つに従って劣化していきます。容器弁の点検は、設置後25年(下記消防庁告示参照)を経過するまでに実施が必要です。容器弁の安全性の点検では代替品を準備し交換するための時間と、全ての工程でお客様の立会いを必要とします。さらに容器弁に不具合が発生した場合は **点検費用+交換費用** がお客様負担となります!!

そのため当社では、**推奨交換年数(18年~20年)**を超える貯蔵容器及び容器弁は  
新品への交換をお勧めしています。

#### 点検対象となる設備

- 不活性ガス消火設備 ■ハロゲン化物消火設備 ■粉末消火設備
- パッケージ型消火設備 ■パッケージ型自動消火設備

#### 点検対象となる容器

- 貯蔵容器 ■加圧用ガス容器 ■起動用ガス容器

「ガス系消火設備制御盤」の更新推奨  
リレー式▶17年~20年 電子式▶13年~15年

注目!

平成25年11月26日  
消防庁告示 第19号

容器弁は、**設置後30年**(二酸化炭素を消火剤として用いるものは25年)を経過するまでの間に容器弁の安全性の点検を実施すること

注目!

生産終了から**おおよそ10年間**で  
部品の供給が停止されます。  
それ以前に新しい受信機への  
更新を推奨します。

## 安全LV 15年~20年経過している 自動火災報知設備火災受信機更新

### 自動火災報知設備更新のお勧め

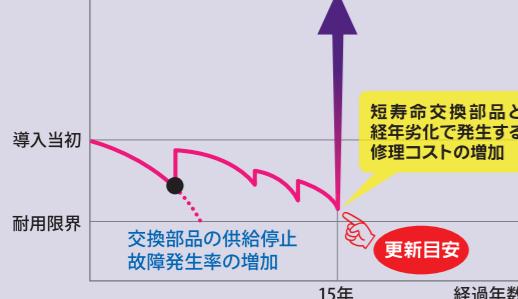
自動火災報知設備は昭和36年の消防法改正により、全国的に設備されてから50年を経過しています。自動火災報知設備も他の設備同様、その機能と性能の信頼性を維持するには継続的な限界があります。

受信機故障時には火災警報機能などが正常に動作しないことが懸念されます。  
従いまして、一定時期を経過した火災受信機の更新を推奨します。

#### 未警戒になる前にリニューアル

▲信頼性・安全性

リニューアル時



#### 火災受信機更新目安

受信機▶15年(20年\*)

\*電子機器部分を多用していない機器

#### より便利に安全に

- ・音声警報でわかりやすい
- ・従来品より発報場所の特定が容易
- ・履歴機能(発報履歴、操作履歴)で明確
- 信頼性の向上
- ・自動点検機能
- ・火災確定機能
- ・主音響一時停止機能
- ・地区音響再鳴動機能と拡大鳴動
- 小型化、操作性向上
- ・従来品より小型化、薄型化、軽量化
- ・従来品より分かり易いスイッチ操作

注目!

生産終了から**おおよそ10年間**で  
部品の供給が停止されます。  
それ以前に新しい受信機への  
更新を推奨します。

## 安全LV 既存建物への 真空スプリンクラー設備

### 真空だからできる火災以外では放水しない画期的なスプリンクラーシステム

■資産を漏水事故から守る…2次側を大気圧より低い負圧にすることで、従来のスプリンクラーのような誤放出による多大な水損を防ぎ、資産を漏水事故から守ることができます。

■パイプの腐食やヘッドの破損による水損防止…配管にピンホールが発生しても、地震等によりスプリンクラーヘッドや配管の一部が破損しても、火災以外で水損は発生しません。

■リニューアル工事に最適…水損が発生すると大きな損害が予想される大切な用途、区画だけ真空スプリンクラーへの変更が可能です。

■工事費の大幅な削減が可能…既存の配管をそのまま使用することで、天井の撤去がなく、テナントの移動費用が不要です。

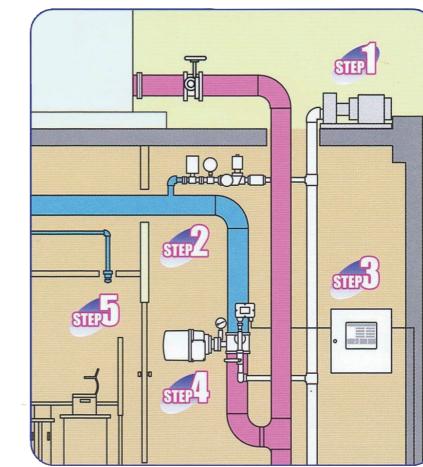
■廃材が少なく環境に優しい…既存の設備を有効に利用できるため、大量の廃材を出しません。

■工事を分散して行うことが可能…初期工事で真空ポンプを設置しておけば、必要な時期に必要な階を工事できます。

### 真空スプリンクラーへのリニューアル手順

- ステップ1 真空ポンプの追加
- ステップ2 真空配管の追加
- ステップ3 真空スプリンクラー制御盤の追加
- ステップ4 アラーム弁を予作動アラーム弁へ変更
- ステップ5 通常ヘッドから真空対応ヘッドへ変更

※設備条件によりポンプ容量、配管サイズ、消火水槽の交換が必要な場合があります。  
事前にご相談ください。

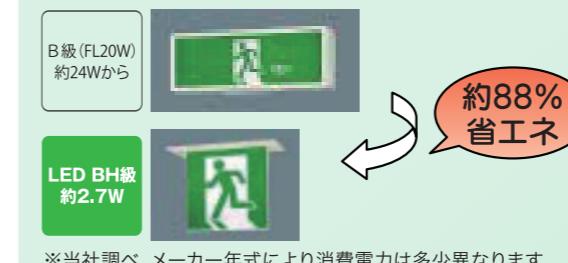


### 湿式予作動スプリンクラー設備も提案が可能

## 安全LV 蛍光管タイプからLEDタイプの 省エネ誘導灯・非常照明設備

従来型の蛍光灯タイプの誘導灯・非常照明からLEDタイプへ交換するだけで  
**約86%以上**の電気代、CO2削減が可能です。

#### 従来型とLEDタイプの電力比較



#### 誘導灯・非常灯器具の交換目安

器具の種類	電池内蔵形	電池別置形	専用形
適正交換時期	8年~10年	8年~10年	8年~10年
耐用年数	12年	15年	15年

※専用型とは電池内蔵型器具で、常時消灯・非常点灯の器具をさします。  
(一社)日本照明器具ガイド108-2003



#### ランプの交換目安(24時間連続点灯の場合)

ランプの交換時期は、使用するランプの点灯時間により判断する必要があります。

使用するランプ	直管蛍光ランプ	コンパクト形蛍光ランプ(誘導灯)	冷陰極ランプ(誘導灯)	LED光源(誘導灯)
交換時期の目安	1年~2年	約半年~1年	約3年~6年	約6年 (赤モニタが点滅します)

#### バッテリーの交換目安

点検時に規定の時間、非常点灯しないバッテリーは速やかに交換してください。

#### 簡単点検の自動点検機能

★点検スイッチを一旦押すだけで、定格時間後のバッテリー容量を自動チェック。  
簡単かつ正確な点検が可能です。

★LED誘導灯は標準装備機能です。詳細仕様は、各メーカーのカタログで確認をお願いします。